

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.48

2009.8.3

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019 - 684 - 2225

FAX019 - 684 - 2227

訪問して 街頭で

コツコツ続けて大きな広がり！ 署名活動

今月は各地域で様々取り組まれている「署名活動」の様子をご紹介します

一関九条の会

毎月実施を基本に、地域個別訪問署名を続けています。毎回5・6人、多いときは10人程が参加して、訪問地域を決めて歩きます。4年間で21回実施し、旧一関市内をほぼまわり切りました。1回の活動で集まる署名の数はそう多くありませんし、大変さを感じることもありますが、訪問先で話をするうちに「戦争はいやなのでがんばってください」「こんな遠くまでご苦労さまです」と励まされ、国民投票法が施行される来年までは訪問署名を続けていきたいと思っています。



平和憲法・9条を守る盛岡北部の会

2005年の会の発足以降、毎月9日にいわて生協高松店で署名行動をしています。すぐ近くに岩手大学があり、授業が終わって学生がお店に来る14:30から30分間、ハンドマイクで宣伝しチラシを配りながら署名を呼びかけています。若者の反応はさまざまで、知らんぷりで通り過ぎる人もいれば、周りの人にすすめると署名用紙を持っていく人もあります。先日は、近くの喫茶店にいて宣伝を聞いた人が署名に来てくれて、そういう事に励まされながら粘り強く続けています。



釜石・大槌九条の会

釜石地区も毎月9日の1時間、サンパルク前で街頭宣伝署名を続けています。7月で32回目、釜石での署名の合計は8,059筆となり、有権者33.4%の到達率です。一人ひとりと対話しながら署名を集める活動が、もし国民投票となったときに、非常に大きな力になります。最近は活動に工夫も必要と感じており、長崎の中学生が被爆体験を聞いて作った紙芝居があるということを知って、それを取り寄せて活用しようかと話し合っています。



平和憲法・9条を守る運動に取り組んでいる花巻地域懇談会(12団体)

7月18日(土)の昼時間、花巻市のアルテマルカンとイトーヨーカドーで街頭署名行動を実施しました。小雨まじりの悪条件でしたが、アルテマルカン103筆、イトーヨーカドー87筆、合計190筆を集約できました。当日は各団体から13名が参加、700枚のチラシを配布できました。チラシは花巻独自のものを作成、花巻地域懇談会の趣旨や映画「日本の青空」上映会等の活動報告を掲載して、署名への参加を呼びかけています。

**「平和憲法・9条をまもる岩手の会」で集約している署名数は現在27万4千筆
目標の県民有権者過半数(=60万筆)めざして引き続き頑張りましょう！**

8月の署名行動

時間がいつもと違います。ご注意ください！

「岩手の会」街頭宣伝行動は、6日(木) 12:30~13:10 大通り・野村証券向いにて行います



戦時食を食べて



お芝居を鑑賞し



平和を語り合った一日

=いわて女性・九条の会=

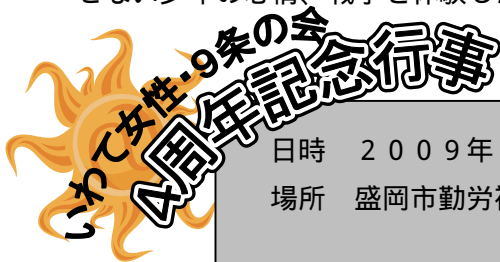
いわて女性・九条の会では7月12日(日)、戦時中の食事はどのようなものだったのか、実際に作って食べながら平和についておしゃべりする会を行いました。

場所は女性の会の呼びかけ人で、宮守で民宿をやっている糠盛さんのお宅。大きな座敷を3つと台所を開放してもらって、貴重な男性数人と共に女性30人ほどがわいわいと「かてめし」と「すいとん」「おにぎり(塩・味噌)」を作って食べました。「かてめし」は戦時食の象徴です。米と量も大きさも同じにした大根を混ぜ込んで作ってみました。当時を知る人にとっては大根のにおいが鼻について食べたくないものの代表だったらしいのですが、今回のものはヘルシーでとてもおいしいものでした。「どうして?」と悩んで出した結論が「米も大根も旨みがあっておいしい品種に改良されているから・・・」でした。農民連婦人部の皆さんからの差し入れもあり、なんだか平和であることの幸せを堪能した一日になりました。



お腹いっぱいになった後は、星鴉宮さんの一人芝居を鑑賞。一人で何度も着替えて汗だくになりながら、「わたしは貝になりたい」(加藤哲太郎ほか原作)など3話を熱演してくれました。それぞれ自衛隊の軍隊化やイラクの生き残ったやる

せない少年の心情、戦争を体験したもののやるせない思いが伝わるものでした。



日時 2009年9月12日(土) 14:00~16:00

場所 盛岡市勤労福祉会館 5階ホール 資料代500円、当日は700円。
(高校生以下無料)

講演 高遠菜穂子さん 「命に国境はない イラクで非暴力は実現するか」

イラクから帰ったばかりのあの「高遠菜穂子」さんが、イラクの戦後の流れと現況、民間支援の実績、再建プロジェクトが戦争でもたらしたものの、非暴力で戦場を生き抜く実態を、彼女の感性で映像を使いながら訴えます。

命の尊さをあらためて感じた... 朗読「夏の雲は忘れない」



原爆で家族を亡くした人々が残した手記を、女優たちが朗読する「夏の雲は忘れない」が盛岡、久慈、北上で上演されました。盛岡公演(7/28)は560名が鑑賞し、昼の部終了後に開催された「出演者との交流会」には高田敏江さんや大森暁美さんら女優6名と、一緒に朗読した地元の演劇部の高校生も参加して、参加者の質問を受けながら交流しました。「日本とアメリカが戦争をしていたことも知らない高校生がいる。この朗読で、特に若い世代にあの原爆のことを伝えたい」と公演活動を続けている女優さんたちの熱い思いが間近で伝わってきました。